



# 環境省報道発表

令和6年2月29日(木)

## 令和5年度大気・水・土壌環境保全活動功労者表彰の 受賞者の決定について

<岩手県、栃木県、富山県、京都府、奈良県及び愛媛県同時発表>

大気・水・土壌環境の保全に関し顕著な功績のあった団体や個人に対し、その功績を讃えるため、環境省水・大気環境局長から表彰状を授与します。なお、表彰状の伝達は、推薦地方公共団体等から行われます。

### 【添付資料】

- ・ 別紙 令和5年度「大気・水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧

<詳細は次ページ以降>

内容についての問合せ先  
環境省水・大気環境局総務課  
代 表：03-3581-3351  
直 通：03-5521-8286  
課 長：鮎川 智一  
課長補佐：稲村 徹  
係 長：小西 美代

## 大気・水・土壌環境保全活動功労者表彰

大気・水・土壌環境の保全に係る分野において貢献し、顕著な功績のあった団体及び個人を表彰します。

環境省水・大気環境局において、令和5年7月1日付けで組織再編を行い、大気・水・土壌の3つの環境媒体を一体的に管理する体制を構築したことに伴い、「大気環境保全活動功労者表彰」と「水・土壌環境保全活動功労者表彰」を統合し、「大気・水・土壌環境保全活動功労者表彰」として実施することとしました。

受賞者数：14（団体：7団体、個人：7名） 詳細は別紙のとおり

以 上

	推薦者	団体	個人	主な功績
1	北海道		みかみ ひでとし 三上 英敏	平成2年に北海道庁の研究所に入所して以来、30年以上にわたり水環境の研究業務(特に湖沼の環境保全など)に従事してきた。また、これまでに国等の委員会に参画し水域の環境保全行政に貢献したほか、「網走湖における生物学的特性と環境変化」に関する研究で、陸水学会の論文賞を受賞している。
2	岩手県	かんきょうまいすたーしわ 環境マイスター紫波		水生生物調査支援と調査結果を活用した水質モニタリングを18年間継続して実施している。令和5年度は紫波町内の11団体(延べ269名)が実施する水生生物調査の支援を行い、水質環境の保全意識の高揚に貢献している。また、多様な生物を育む「城山公園」などをフィールドに自然環境の保全と環境に配慮する人材の育成に取り組んでおり、紫波町の環境保全において重要な役割を担っている。
3	栃木県	しんこうもおかきゅうゆうかい 神鋼真岡旧友会		水質保全のために河川(江川・大久保川)のごみ拾いや維持管理に向けた草刈り・泥さらいなどに取り組んでいる。土壌汚染対策としては、里山林や周辺道路等のごみ拾いを継続して行っており、近年プラスチックによる河川・海洋汚染が世界的にも問題視されているため、ペットボトル等のプラスチックごみを意識して収集するように努めている。また、メンバーが元々勤めていた(株)神戸製鋼所 真岡製造所及び関連電力会社へ協力依頼を行い、小学生を対象とした「工場見学・環境学習会」を実施し、工場見学を通して会社として取り組んでいる公害防止対策を説明するとともに、神鋼真岡旧友会のメンバーが講師として、大気・水質・土壌汚染防止の環境学習会を行っている。
4	富山県	たんぼしましゅうらく 反保島集落 かんきょうほぜんすいしんきょうぎかい 環境保全推進協議会		平成19年から、小中学生らと協議会員計50人程度が参加し、6月にホテルの観察会、7月に水辺の生き物・水質調査を反保島地域の農業用水路で実施しており、地域の水環境保全意識の高揚に貢献している。また、小学生を対象に「水や川を守る」ポスターを募集のうえ優秀作品を看板にして農業用水路等に掲示したり、活動内容を取りまとめた広報誌を地元の集落や小中学校に配布したりすることにより、水環境保全の普及啓発を行っている。
5	富山県	てんじんちいきしんこうかい 天神地域振興会		平成27年から、国登録有形文化財(令和2年登録)である東山円筒分水槽の底にたまった砂の排出作業を実施するとともに、平成30年から「うおづ水守ガイド」と協力して東山円筒分水槽の解説を行う「春の見学会」を開催し、水環境の魅力を発信している。また、平成28年には、東山円筒分水槽付近に、地元産の木材を利用したテーブルとベンチを来訪者のために整備して維持管理しているほか、令和3年から、東山円筒分水槽隣接地に整備されたポケットパークの除草等の環境整備を定期的実施するなど、親水空間の創出に貢献している。
6	長野県		おざわ ひであき 小澤 秀明	多年にわたり、長野県環境保全研究所(旧衛生公害研究所)に勤務し、水環境分野やダイオキシン類測定分野で調査研究を実施し、国内外を問わず論文や学会発表において顕著な業績をあげてきた。平成6年に発生した松本サリン事件の際は、サンプリングや原因物質の特定作業に加わり、原因物質の特定に貢献した。その他、環境省が実施する化学物質や農薬の分析法の開発に尽力してきた。また、平成13年から令和元年まで環境省のダイオキシン類環境測定調査受注資格審査検討会の検討委員を務め、ダイオキシン類分析に係る国の環境行政に貢献するとともに、令和3年度から令和4年度まで信州大学理学部附属湖沼高地教育研究センター共同利用運営委員会の委員を務め環境教育にも貢献している。

	推薦者	団体	個人	主な功績
7	京都府	京都府立宮津天橋高等学校 フィールド探究部		宮津市の大手川の環境保全活動を行っており、川の生物相の経年変化や流域住民の意識調査をもとに「大手川河川激甚災害対策特別緊急事業」による河川改修が与えた影響を評価し、砂の堆積による環境の変化や川への関わりの減少といった課題を明らかにした。 また、水制工を用いた多自然環境の創出や親水公園の再生、川でのイベント開催や市の広報誌への活動報告記載を通して、河川環境や住民意識へのアプローチを行った。 この活動には学術関係者・地元自治会・京都府・宮津市等の多様な団体が関わり、生物多様性保全や流域治水等、様々な角度から課題解決に向けて活動している。
8	大阪府		しらたに あきら 白谷 章	大阪府内河川のより一層の水質保全を図るため、環境基準に係る類型指定の見直しや水生生物の保全に関する項目の新規類型指定に取り組むとともに、大阪湾の水質保全に向けた発生負荷量の把握や燐の削減指導に従事するなど、公共用水域の水質保全に尽力した。 また、大気中の窒素酸化物対策として、固定発生源からの排出量を抑制するため府独自の指導の強化に取り組むなど、長年にわたり、大阪府の大気環境保全行政に大きく貢献した。
9	奈良県	天理高等学校 理研部		環境市民ネットワーク天理、天理市環境連絡協議会等と連携し、平成26年から布留川生物学的調査・ホタル飛翔数調査、平成19年から天理市内イチョウ街路樹健康度調査と落葉堆肥化実証実験を継続的に行っている。
10	徳島県		とくやま ゆたか 徳山 豊	昭和49年から長年にわたり、吉野川、那賀川、海部川をはじめとする徳島県内各地の河川で水生生物の調査研究により水環境の把握に努め、その調査結果は、県内の自然や歴史等の学術調査の成果を取りまとめた「阿波学会研究紀要」に掲載され、県内河川の水環境を知る上での貴重な学術資料となっている。 平成2年からは、徳島市園瀬川、徳島市鮎喰川、阿波市日開谷川等で県や市等が実施する小学生対象の水生生物の観察会で講師を務め、水環境学習を通じて子どもたちの川の生物への理解を深めるとともに、水環境保全に対する意識を醸成するなど、地域における水環境教育活動の促進に尽力している。また、県や徳島市等の水環境学習に関する様々な助言や支援を行い、水環境保全行政の推進に貢献している。
11	愛媛県		ふじもと とよみ 藤本 豊實	平成18年、西条小学校での総合的な学習の時間の講師(環境問題・リサイクル)をきっかけに、学校の要請に応じて、平成19年4月に「西条小学校こどもエコクラブ」を設立。教育課程内のクラブ活動として、学校近くの本陣川の見学を通して、西条市内に自噴する「名水うちぬき」の価値や市内の河川の成り立ちや仕組みを知らせ、水資源の保全意識を高めたり、西条市のごみ問題やリサイクルの現状を取り上げた学習を通して環境保全のために行動することの大切さを伝えている。 また、長期休み中に1～2日、市内企業の協力を得て、水力発電所の見学や、市内を流れる加茂川の生物調査を行う「一日エネルギー・エコツアー」を実施。平成24年10月には、市内企業と協力して、西条小学校校庭にピオトープを設置し、以後、西条小学校児童に向けて、ピオトープを通じた環境保全の普及・啓発活動も併せて実施している。

	推薦者	団体	個人	主な功績
12	熊本県	やべごうしぜんかんまつかい 矢部郷自然観察会		昭和61年の発足以来、37年間にわたり山都町内外の子どもたちを中心に町民を対象とした自然観察会を開催。山都町全域を自然観察のフィールドとした観察会の開催、ジュニア・レンジャー(少年少女自然観察指導員)の育成、観察会の広報の発行、希少野生生物の観察、棚田の生き物たちの観察、指標生物による川の水質調査などを実施し、水・土壌環境保全意識の高揚や環境教育に寄与している。
13	鹿児島県		おおつ むつお 大津 睦雄	鹿児島県入庁から退職するまで、長年にわたり環境保全行政に携わり、その推進に精力的に取り組み、大気・水・土壌に係る環境問題への対応に尽力した。環境庁に出向した際は、自動車騒音・排出ガスの単体規制や道路に面する地域の騒音に係る環境基準の評価(面的評価)の策定に携わった。また、社会的に課題となったダイオキシン類については、分析システムの整備や常時監視体制の構築に貢献し、公共関与型の管理型最終処分場の整備にも尽力した。環境保全課長就任後も、大気汚染の常時監視に係る一般環境大気測定局の離島への増設や、水生生物の保全に係る環境基準について海域の類型指定に尽力するなど、県の環境保全行政の牽引役を果たした。さらに、各種環境保全施策に係る普及啓発活動に積極的に参加し、県民への環境保全意識の高揚にも取り組むなど、後進の模範となり、その育成に努めた。
14	神戸市		ふじかわ ようこ 藤川 陽子	バイオマスを利用した重金属類の除去・回収に関する研究、鉄バクテリア活用の水処理技術に関する研究、セシウムの土壌等への吸着特性と除染に関する研究等、水・土壌の環境の保全に関する基礎研究に取り組み、多数の成果を上げている。 また、これらの水・土壌の環境保全に関する深い学識を基に、平成24年2月から神戸市環境影響評価審査会(神戸市附属機関)の委員として、環境リスク、地下水汚染の分野を中心に、事前配慮、環境影響評価及び事後調査等、各手続段階において環境影響に関する基本的事項及び重要事項の審議を行っている。平成24年には「神戸市環境影響評価等に関する条例」及び「神戸市環境影響評価等技術指針」の改正に係る審議において、環境影響評価の技術・制度の向上などに関する有益かつ先見的な助言を行った。

団体 7

個人 7

合計 14